

改訂版の序

標準注意検査法は、これまで、7つの下位検査で構成される形でご利用いただいていた。今回、積極的な改訂としては、従来の Continuous Performance Test (CPT) のソフトウェアが、近年の Microsoft Windows® に対応できなくなったことに対して、バージョンアップを行うと同時に、検査実施の容易化、適応年齢の拡大、ならびに、結果表示の自動化を行った。一方、Symbol Digit Modalities Test (SDMT) と Position Stroop Test (上中下検査) については、検査に使用している図版が本委員会オリジナルのものではなく、本検査の一部として使用することが不適切と判断されたため、これらの2つの検査を削除することとした。このことは、SDMT という検査自体、ならびに、Position Stroop Test の図版自体の意義を否定するものではない。なお、SDMT に類似した検査法としては、WAIS-Ⅲ (または WAIS-Ⅳ) の下位検査「符号」があり、それを利用することを提案したい。Stroop Test については、国際的に様々なバージョンが提案されているが、我が国に原版に近い形の標準化された検査法はない。Stroop Test は、日本高次脳機能障害学会 Brain Function Test 委員会としても、標準化を行うべき検査法の1つと考えているが、現時点では用途は立っていない。注意には幅広い側面があり、その広くを網羅した検査法であることが望ましいが、現時点で使用可能な下位検査を包括したものとして、本改訂版を出版し、これからもご愛用いただけることを願っている。

2022年8月

一般社団法人 日本高次脳機能障害学会
Brain Function Test 委員会
委員長 石合純夫